

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	沖縄中部療育医療センター		
○保護者評価実施期間	R8年 3月 1日		～ R8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61名	(回答者数) 51名
○従業者評価実施期間	R8年 3月 1日		～ R8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○訪問先施設評価実施期間	R8年 3月 1日		～ R8年 3月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	61名	(回答者数) 50名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの課題内容に応じて多職種連携で支援を行っている。 →心理、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士 環境調整の具体的内容や必要な教具教材の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用児のアセスメントや訪問中での現状を職員間で共有し、定期的なケース会議を行い支援方法の協議を行っている。 利用児の課題に応じて専門スタッフを同行し、支援内容の提案を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用児の発達や成長に向けた適切目つ丁寧な支援を継続し関係機関や保護者との連携の安定を図る。
2	訪問先職員との信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 訪問の中で利用児の状況の確認や聞き取りなどを行い、必要な支援の助言や情報提供を丁寧に行っている。 利用児の特性に対する共通認識がもてるよう都度説明を心がけている。 訪問先職員の困り感を共有・共感し、負担感が軽減できるようサポートしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問先職員の困り感や相談に対し、丁寧なやり取りを重ね利用児への支援向上に繋がるサポートを継続。 訪問先担当職員へのフィードバックを行い、利用児の発達や成長に向けた具体的手だての共有を行う。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	課題に応じた教具について、保護者への情報共有の強化。	情報共有の伝達や説明不十分。	情報伝達手段の強化。 →会議、面談等。
2			
3			